東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2011 年 3 月 11 日

預言者ムハンマドの貧者や貧困に対する態度

親愛なるムスリムの皆様。社会の中で保護され、見守られるべき層の一つは、疑いもなく、様々な理由で困窮している人々です。クルアーンでは貧者に援助すること、彼らに食べ物を与え、保護することに関して多くの章句が存在します。

預言者ムハンマドはイスラームの最初期以来、社会において貧困層が保護され、見守られること、貧困と戦い、社会に困窮者を残さないために多くのことを実践してきました。例えば、ヒジュラを行なった人々と、マディーナで彼らを助けたアンサールとの間に兄弟の契りを結ばせ、奴隷を解放し、困窮者たちに国家によって集められた戦利品やザカートから分配を行なったり、他の援助を奨励したりしました。またイスラーム教徒ではない貧者をも保護し、見守り、経済的に力がない人、働くことができない人、貧しい人には人頭税を免除していました。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。預言者ムハンマドの、この項目に関する次の伝承はいかに注意を引くものでしょうか。ある日預言者ムハンマドのもとに、ムダル族の人々が数人やってきました。彼らの貧しい状態を見て、預言者ムハンマドの顔色が変わりました。その時間の礼拝を先導した後、貧者への援助を奨励するいくつかのクルアーンの章句を読まれ、人々に次のように呼びかけました。「人は自らのディナールやディルハム、服、麦、ナツメヤシから、半分のナツメヤシであっても、サダカとするべきである。」人々は一気に行動し、お金、食べ物、飲み物など必要物資を持ってきました。着る物と食べ物で二つの山ができたほどでした。預言者ムハンマドはこの光景にこの上なく満足されました。

預言者ムハンマドは貧者の状況を改善される為に活動される際、決して彼らを馬鹿にしたり、軽蔑したりすることはありませんでした。

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドには、貧困や貧者に関する多くの言葉があります。この項目に関する言葉は二つに分類することができます。一つめのグループの伝承では、忍耐する貧者が天国に最初に入る一段となること、天国の民の多くが貧者であること、貧者は金持ちよりも先に天国に入ること、貧困が恥ずかしいことではないこと、アッラーは信仰し、高潔で、貧しいしもべを愛されることが述べられています。

二つめのグループの伝承では、忍耐し成熟した振舞いを行なわない、貧困を言い訳にして自制心を失い、悪事を行い、反抗する貧者達を強く非難しています。貧困からはアッラーに庇護を求めるべきであり、貧困が人を一部の悪事へ、さらには教えへの憎悪へ引きずりこむことを述べています。

豊かであることも、貧困も、試練の要因となることを忘れないようにしましょう。私達が生きている社会に暮らし、私達が知っている、あるいは知らない貧者達に対し、援助を行なうことを厭わないようにしましょう。